

東播海岸の管理に関する検討会 現地調査概要

開催日時：平成22年11月5日(金) 13:30～17:00

場所：①明石市松江地先(明石西部工区 林崎松江海岸)

②明石市大蔵海岸通2丁目地先(大蔵海岸)

参加者：委員8名、事務局等9名

◆現地調査概要

- ① 東播海岸の管理のあり方について検討するため、林崎松江海岸(養浜部)における現在の巡視状況・方法等について現地確認し、助言を頂いた。
- ② 9月24日に確認した大蔵海岸公園のコンクリート護岸背面空洞箇所を現地確認し、その原因と対策について助言を頂いた。

※空洞に関しては、国土交通省と明石市の連名で記者発表済み。

「H22.10.1 大蔵海岸公園のコンクリート護岸における緊急点検調査とそれに伴う立入制限について」

「H22.10.26 大蔵海岸公園のコンクリート護岸における緊急点検調査結果について」

◆委員からの助言

①林崎松江海岸(養浜部)における巡視状況・方法等について

- ・ 汀線(波打際)の経年変化を蓄積すれば海浜特性(砂の動き)を把握し分析する事が出来るので、巡視の際に無理が無ければGPSを使って汀線際を歩くことでデータの集積ができ今後の管理に役立つのではないかと。
- ・ 構造物の回りは地形の変形が起こりやすいので、巡視の中で砂浜の動きのデータを集められれば今後の管理に役立つのではないかと。
- ・ 鉄筋が入り込む箇所については、空洞となっている箇所と砂が緩んでいる箇所とに分けられると思う。どちらも鉄筋では断面積が小さいので入り込んでしまうが、砂が緩んでいる箇所については断面積の大きなもので調べれば貫入しないと思う。断面積の大きなものでも貫入(もしくは崩れる)するような空洞は人が落ちるなどの可能性もあるので特に注意する必要がある。
- ・ 砂浜で基盤の捨石が見えている箇所があった。海水浴場として利用されているならば利用者の安全性を考慮した点検が必要ではないかと。

②大蔵海岸公園コンクリート護岸背面の空洞について

- ・ コンクリート護岸の目地が海に対して水平方向に動いているが、このような現象はあまり聞いたことがない。コンクリート護岸の隙間が施工当時のものなのか、台風等の外力の影響を受けて開いたものなのか不明であるので、設計時の考え方を検証する必要がある。ケーソン目地からの裏込材の流出を抑える手法については、裏込材の粒径を変えるなどの方策があるが、工事規模なども考慮しながら様々考えるべき。

現地調査状況



①養浜部における巡視状況・方法調査
(明石市林崎松江海岸)



②コンクリート護岸背面の空洞調査
(明石市大蔵海岸)